

# New World Order の運命は、ロシアのウクライナ作戦に 掛かっている

——ロシア情報局チーフ

Sputnik International, Sergei Naryshkin

2022/04/08

「世界秩序構築」の全体は、ウクライナでの、ロシアの軍事作戦の成功いかんに、かかっている、とロシア情報局長官セルゲイ・ナリシュキンが言った。

「ここに対立するものの厳しさは、明かに、我々が、キエフ体制の運命以上のものに、直面していることを示している。実際、世界秩序全体の構築が、そこに賭けられている。現行の状況の根源にあるものの、特定の輪郭を予言するのはちょっと難しいが、その元の状態に戻ることはできないだろう、と確信をもって言うことができる」と、ナリシュキンは、ロシアの国防雑誌の論文に書いた。 <https://oborona.ru/product/zhurnal-nacionalnaya-oborona/sovremennaya-mezhdunarodnaya-voenno-politicheskaya-situaciya-i-tendencii-ee-razvitiya-43485.shtml>

戻るのではなく、と情報チーフは仄めかした、現在の「古めかしい、リベラルな普遍思想」は、ある別の新しい世界秩序——正義の持続性ある秩序——に取って代わる」ことができ、そうしなければならない。

ナリシュキンは、ウクライナのロシア軍の作戦が、ウクライナの試みに終止符を打ち、「ロシア憎悪・傀儡国家」を終わらせることに、自信を表明し、それはこれまで、ロシアにつながるあらゆるものの、狂気の否定と、悪魔化に根底を置くものだった、と言った。

ナリシュキンは、アメリカが「最も邪悪な方法」を用いて、ロシア軍の作戦を引き延ばそうとし、ウクライナの民兵を展開させて、テロリスト地下兵まで組織していると非難した。ワシントンは、今、可能な限り戦闘を引き延ばし、モスクワにとってもウクライナにとっても、できるだけ費用をかけさせるのが、目標の中心だと、彼は確信している。

「NATO は、アメリカの戦略家が強調する通り、ウクライナを、きっと〈一種のアフガニスタン〉に変えようとするはずだ。歴史や地理を少しでも知っている者なら、このような類推の、完全な不適切さと戦略の失敗は明かだ」と、情報チーフは書いている。彼はつけ加えて、「このようなことは、ウクライナとロシアの都市を混同したり、ロシア人

地域全体が、現実にウクライナの一部であるかのように勘違いしている、西洋のリーダーだけが言っていることだと言った。

ウクライナ危機は、今日、アメリカが、肥大し過ぎた地球的覇権国家になっていることの、確かな証拠だ、と、ナリシュキンと言う——「かなり面白い状況が現れつつある。それは、旧ソ連邦の歴史を思い出させることで、西側が、アメリカに指導されて、イデオロギー的なガイドラインを、世界に押し付けようとするのだが、彼ら自体がそれを信じておらず、常に自分自身に反しているのだ。」

情報局チーフによれば、グローバルな覇権という役割を演じようとする、アメリカの欲求は、危険な軍事的・政治的な冒険主義へと、この国を押しやっている。そして世界中のリーダーが、これにべったり寄り添っている。

「米とその同盟国すべてを含めた全員が、彼ら自身の対外的・国内的政策において、可能な限界を広げてみることで、弱体化している覇権の力が、どれほどのものかを試してみようとする」と、ナリシュキンは言う。その限界の証拠として、大多数のアジア、アフリカ、そしてラテン・アメリカ諸国までが、西側の反ロシア制裁には、加わらない決定をしたことを、彼は指摘する。

現時点までアメリカに忠実であった同盟国までが、ワシントンの覇権主義に挑戦していると、ナリシュキンは書いており、サウジの皇太子モハメッド・ビン・サルマンの、最近の、バイデン大統領による石油増産要求の拒否や、パキスタン首相イムラン・ハーンの、イスラマバードはロシアのウクライナでの行動を非難せよという、要求の拒否を指摘している。パキスタン首相は、自分は西側の「奴隷」ではないと言った。

「アメリカの政治家の目から見れば、トルコやインドや、アラブ首長国連盟のリーダーたちも、同じように〈横柄に〉振舞っているのだ。と同時に、アメリカのエリートたちは、ジョージ・W・ブッシュ（子）時代の精神によってで、同僚に話しかける余裕はなくなると認めている。そのように世界の栄光は過ぎ去る」と、ナリシュキンは書いている。

ナリシュキンの言うことは究極的に、「ヨーロッパと世界の歴史の、基本的に新しい段階が、我々の目の前で、開かれつつあるということだ。その本質は、一極集中世界と、最も強い者の権利に基づく、国際関係の仕組みの崩壊である。すなわち、アメリカが他国を滅ぼして、彼らが権力の中心になるわずかの可能性をも断つ、というやり方は不可能となった。

こうした目標は、ユーゴスラビア、アフガニスタン、イラク、リビア、それにシリアで追求された。これはまた、ウクライナを勢力圏に引き込もうとする、西側の努力の目標でも

あった。今日、ロシアは、これまでに存在したことの無い、真に多極的な世界、そしてあらゆる人々が——我々の現在の敵対国でさえ——将来には、利益を得るような世界を創り出すことによって、このシステムに公然と挑戦しているのである。」

このロシア情報局チーフは、更に続けて、西側のエリートたちはウクライナ危機を利用して、彼ら自身の中産階級をも弾圧する、古くからの計画を、実現させようとしていると言った。

「現在、アメリカやその衛星国の通告した、ロシアに反対する〈十字軍運動〉のおかげで、アメリカや EU 諸国の市民たちは、前例のない、燃料、電気、食料価格の高騰に直面している。ヨーロッパの住民たちは、すでに、配給制度や、熱源の遮断の導入を覚悟している。そしてこれは「セーターを着ることで」間に合わせようと言われている。このすべては、ウクライナの人々を助けるという口実で行われているが、ウクライナ人自身は、そのような援助にもかかわらず、暑くも寒くもないのだ」と、ナリシュキンが書いている。

「ここから感じられることは、西側のエリートたちは、単に、発生してきたこの状況を利用して、長い間、温めてきた、事実上の中産階級の解消を実行しようとしているかのようであり、それは、ダボスの〈世界経済フォーラム〉によって唱道された、よく知られたシナリオの精神によるもので、2030年までに、〈あなたは何も所有しないが幸福になれる〉というものである」と、ナリシュキンは言った。

### 【訳者 Greatchain 注】

このタイトル「NWO の運命は、ロシアのウクライナ作戦いかに掛かっている」がすべてを語っている。ここには、大きな崩れつつある世界の分析と、いかにそれを再構築するかの問題が語られている。NWO という大規模な悪の構想が、いま崩れ落ちつつあり、それは「後戻りのできない」ほど、規模の大きなものだった。私はかつてこれを、シェークスピアの『マクベス』に喩え、いったん動き出した篡奪者の、悪の構築物は、途中で方向を変えることができず、狂人のように荒れ狂って、最後を迎えねばならない、と言った。

ただ、プーチンのロシアだけが、崩壊した世界を再構築する、能力と使命感をもっている、とこの情報チーフは言っている。これは日本政府をはじめ、アメリカに「べったり寄り添う」西側従属国には、思いもよらぬことかもしれない。これはロシアを憎んで、アメリカのロシア叩きに従うというような話から、遠く離れた話である。どうかわが国

に、別の方向を示すような、真の指導力をもつ政治家が現れたら、このロシア人を参考にさせていただきたいと思う。

ナリシュキン氏は、エドガー・ケイシーの予言を知っているだろうか？ 知らないかもしれない。<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/220329.pdf>  
しかしケイシーの予言は、このような筋書きが実現しなければ起こりえないことである。